

e-ビーフNEWS 北の牧場から

February 2020

月刊情報誌

No.74

発行
特定NPO環境リサイクル牛協議会
〒080-0047
北海道帯広市西17条北2丁目44-10
TEL/FAX 0155-66-5159

十勝はドカ雪

来ましたね。1月末になって1日雪が降り続き26cm。湿り気のある重たい雪でした。例年なら11月の初冬に振る雪が2か月ぶりに舞った感じです。1月にしては気温も高く、パサパサの乾いた雪のはずが、除雪で足腰にダメージ与えるくらい比重の重たい雪でした。道路もビチャビチャで今年はいくら車を洗っても間に合いません。スタンドの洗車場には長い列ができます。でも、一面真白な大地は落ち着きますね。雪がないと春の農作業に影響します。春先の干ばつになりかねません。これでもまだまだ少ないですね。

キツネやタヌキが牧場によく顔出します。アカゲラが庭の木々をつつきます。オオハクチョウの群れが飛び交います。動物たちがいち早く春の訪れを予感しています。



活動のお知らせ

- 2月初め 道総研 畜産試験場 飼養技術研修会検討中
- 2/8(土) 13:00~17:30...とかちプラザ307 アニマルウェルフェア畜産協会 アニマルウェルフェア畜産セミナー
人と家畜共に生きる 家畜に安らかな最期を…牛の最後にどう向き合うか
- 2/21(金) 9:15~16:00...北農ビル19階 北海道畜産技術連盟、北海道酪農畜産協会畜産関係新技術発表会
- 3/7(土) 13:00~17:30...酪農学園大学 学生ホール アニマルウェルフェア畜産協会
「アニマルウェルフェア認証食品は売れるのか?」
- 3/26(水)~28日(土)....京都大学農学部 日本畜産学会第127回大会
- 3/28(土).....京都大学 日本産肉研究会 第25回学術会議
テーマ「生産・流通・消費・研究者みんなで新たな牛肉評価基準を考える」招待講演の依頼

NEWSばか読み

- 日米貿易協定が発効 1/1:いつの間にか不平等条約が
- 2019年時点 海外のレストランが15万9千件6年前の3倍に
1/4:食材つくないと
- 切り花販売 主流はスーパーへ 1/6:街の花屋はなくなるのか
- 豪の森林火災が拡大 東京の20倍に 1/7:温暖化一段と
- 近大系新興企業 養殖マダイを欧米に輸出 1/7:積極的大学ビジネス
- 沖縄で豚コレラ 8県目 26年ぶり 1/9:飛び地になぜ
- 農林水産省 交流サイトを開設INACOMEイナコム 農村企業を後押し
1/10:
- 訪日客3188万人で7年連続で増加 日韓関係等で伸び率は鈍化
1/11:限界か
- 11月家計消費2%減 景気動向指数4ヶ月連続悪化 1/11:経済の実態
- 20年の福袋 食品に移行傾向顕著 1/11:消費者のふところ反映
- 吉野家 営業利益35倍に膨れる 新商品反映 1/11:輸入解禁とともに
- 家伝法 アフリカ豚コレラの予防殺処分に野生動物も含める
1/13:いなくなる
- 農林水産省 鶏卵肉に新たなJAS規格 国産品種の活用環境配慮等
1/14:規格基準
- 和牛子牛相場 12月に異例の前年同月比5.7%(45千円)下げ
1/15:高過ぎ

- 宮崎大 カメラとAI活用し豚舎内体重測定し出荷の自動選別化
1/15:AI進化
- 日本ハム 植物肉「ナチュラルミート」ブランド販売開始
1/15:人工肉普及進む
- クボタ 3年後めどに電動小型トラクター発売 1/16:EV化進む
- ノザキのコンビーフ台形巻き取り缶が樹脂製に 1/16:買いためしよう
- 中国成長率6.1%と29年ぶりの低水準 1/18:米中摩擦の結果景気減速
- ベルリン農業相会議で食糧安保宣言 多様性農家の支援
1/20:日本はついてゆけるか
- 農林水産省 就農支援で世代幅広く助成方針 1/22:多様性から再考察
- FAO(国際食糧農業機関) 食料の上昇5年ぶりに 1/23:食糧は豊かでない
- 食品スーパーの19年度売上 初めて前年割れ 増税などの影響
1/23:消費者心理
- 中農林水産省 粪尿処理施設で再支援事業拡充 畜産新事業
1/27:旧堆肥施設更新
- 家畜改良センター調査 和牛の嗜好性に国地域の違い 欧米香、アジア柔らかさ 1/29:
- 農林水産省 酪肉近 繁殖メス牛増乳牛後継牛の増加方針 1/31:

東京直近NEWS

(1/31 Shi-REPORT)

ホルス

相場は下げ基調の状況。年始製造玉は初回引合瞬間強かったが、以降は落ち着き、暖冬影響もあり上位部位中心に荷動き悪い。特に、肩ロース、ロースが薄くヒレも悪い。年末の販売は、和牛上物に販売シフトから引き合い弱く、相場も停滞で推移した。直近は、コロナウイルス影響で外食も不振傾向との情報、年度末控え在庫放出で更に相場値崩れ可能性もあり。

経産牛

経産牛相場は若干上げ下げあるものの、高値安定状況継続。出回り頭数にも増減あり相変わらず集荷に苦戦模様。引き材の在庫は慢性的に不足しており、年度末と次年度の在庫状況が不足。逆に、年度末に向けた売上不足から在庫放出版売の業者情報もあり相場は不透明。大半は相場高からコスト上がっており、次年度に向けて値上げ示唆。パートは落ち着き始めており、やや余裕あるか。

左先生の畜産学研究NEWS

2020年は日本人が気持ちを新たにするのに相応しい穏やかな元日を迎えるました。が、中国武漢から発生した新型コロナウイルス感染・新型肺炎の世界的拡大とその対応が連日報道の的になっています。一方で、地球環境は連続的に推移し、わが国は暖冬傾向にあり、その原因は地球温暖化かと周囲の消費者に不安感もあるようです。農作物の生育が速く進んで市場が溢れて値崩れが起き、規格外農産物を廃棄したり、少雪で土壌凍結が進んで貯蔵庫の役割を失なうなど、安定した地球環境を基盤にした農業にはこうした気候変動への対応に常に求められていることが再認識されました。植物生産が農業の持続に不都合ならば家畜をLivestockとしての機能を農業環境の安定化に有効に活用して欲しいと思いました。

e-びーふNews74号の学術情報は以下の通りで、Anim.Sci.J.は日畜会報の欧文版抄録からです。

1. 畜産技術#776, 2020.1. 特集:人工知能の畜産への活用

1) 人工知能の基礎知識と研究の歴史(細見隆夫;日本食肉生産技術開発)

人工知能(AI)の研究歴史は古く1943年の「ニューラルネット」に始まり、1957年の「パーセプトロン」を経て、自らが学習し、問題解決を図る今日の「ディープラーニング」へと展開しました。

2) 人工知能を活用した畜産の研究開発の状況(松本光史;農林水産技術会議)

AIやICT技術の畜産分野への活用は「呼吸器・消化器病、周産期疾病の早期発見」「周年親子放牧による子牛生産」「乳用牛の泌乳平準化や健全性の向上」「牧草生産の省力・自動化」などを通じて畜産業の省力化と競争力強化の課題解決が目的です。

3) 畜産への人工知能の活用とその実態(白尾紘司;農水省畜産振興課)

畜産業が今求められている生産性向上、コスト削減などに人工知能(AI)を活用するには、ディープラーニングなどの機械学習を通じて画像解析や音声(波形)解析さらには言語解析などの機能を使って家畜の管理システムに人間が作り上げる必要があります。

4] 畜産関係企業における人工知能の活用事例-食肉処理ロボットの認識技術への深層学習適用事例- (山下智輝;(株)前川製作所)

畜産関係企業でのAI活用事例の一つとして食肉処理ロボットシステムにおける認識技術へのAI深層学習適応例が紹介されました。その過程でAIの深層学習技術で「なんでもできる」というのは過度の期待であり、技術の可能性と限界をよく人が理解することが大切と思われました。

2. Anim.Sci.J.Vol.90,8(2019)

生きているウシの放射性セシウム汚染レベルを評価する試料としての尿と血液の比較(佐藤至;岩手大農)

ウシの筋肉中の放射性セシウム(Cs)濃度100Bq/kgを超えないレベルの血中Cs濃度は2Bq/kg以下で、このレベルの検出に尿サンプルでは1,000ml必要で20分の測定時間で汚染レベルの評価が可能で血液試料より尿試料が有効と思われました。

3. Anim.Sci.J.Vol.90,9(2019)

福島県の帰還困難地域で飼育されている黒毛和牛の甲状腺における病理学的特徴(佐々木淳;岩手大農)

福島原発事故で帰還困難区域の牧場で飼育・維持されている黒毛和種牛66頭の病理解剖で甲状腺被爆の影響を検討しました。甲状腺に肥大は見られず放射線被曝の病理所見は見られませんでした。

国産牛 NEWS

話題提供1.「有機畜産とICT活用 実践例」全5回シリーズ① 有機酪農研究会 会長 石川賢一氏

